

幻（今日）の給食
ごはん 納豆
ピリ辛炒め
あさりのみそ汁

夢の車 ほぼ日刊 C-carat

第633号

神町中学校 夢色通信社
令和2年5月1日



9月入学を考える



夢色通信社ム・ネッティ社長と歴史に詳しいムネ爺の対談を通して、9月入学を考えてみます。

ム・ネッティ：なぜ、欧米では9月に入学式が行われるのですか？

ムネ爺：それは、農業の予定が大きく関係しているといわれている。18世紀～19世紀にかけて、多くの学校では1年の農作業の予定にあわせて開校時期が決められていたのじゃ。ヨーロッパでは、1年の中でも特に7～8月に収穫を迎える農作物（小麦など）が多かったため、農業を行っている家庭ではその時期に子どもの手も借りたいほどの忙しさとなる。つまり、家族総出で収穫を行わなければならなかったことから、学校が始まるのは、農作業が忙しくなくなる9月とされたのじゃ。

ム・ネッティ：明治維新では西洋の教育制度が導入されたのに、なぜ4月入学になったのですか？

ムネ爺：もともと江戸時代の寺子屋、私塾、藩校などは特に入学の時期を定めず、いつでも入ることができたのじゃ。子どもたちは家の大切な働き手だったため、入学時期はばらばらじゃった。やがて、明治維新で西洋の教育が導入されると、高等学校では9月入学が主流となったのじゃ。しかし、国が4月から3月までを1年度とすると、文部省（当時）の指示で高等学校も4月入学となった。学校運営に必要なお金を政府から調達するためには、国の年度の始まりである4月に合わせないと不便だからじゃ。その後、全国の学校で4月入学が広がったというわけじゃ。

ム・ネッティ：ではなぜ、明治政府は1年を4月～3月としたのはなぜですか？

ムネ爺：当時の政府の税金収入は農家のお米じゃった。秋に収穫したお米を、農家が現金に換えて納め、それから予算編成をしていくと、1月では間に合わなかったという事情があったようじゃ。さらに日本が明治に変わったころ、先進国の中心であった‘大英帝国’＝イギリスの会計年度が4月1日～翌年の3月31日であったことから、それを明治政府が見習ったというのじゃ。

ム・ネッティ：大変勉強になり、ありがとうございました。みなさんは、9月入学をどう思いますか？

今日は2回目の中間登校日、2年生と1年4・5組が登校しました。このまま中間登校日も終わり、11日（月）からは学校が再開できればよいのですが……。歴史が好きだという伊藤慧俊くん（1年）は「家では本を読んでいます。今は豊臣秀吉の本です。友達と遊べなくてつまらないです。」と、犬とインコを飼っているという矢口葉楠さんは「普段はペットにかまってあげる時間がなかったので、その分ペットと遊んでいます。」と話していました。中野愛果さん（2年）は「やることがないので、早く学校に行きたい。今は家でのお手伝いをがんばっています。」と、佐藤奏芽さん（2年）は「早く学校が始まって欲しい。今は大好きな新沼謙治のCDを聞いています。」と話してくれました。

